

※※印：2019年10月改訂(第11版)

※印：2016年10月改訂

貯 法：室温・気密容器保存
使用期限：外袋に表示の使用期限内に使用すること。
規制区分：処方箋医薬品
(注意—医師等の処方箋により使用すること)

日本標準商品分類番号
87259

	カプセル0.1mg	カプセル0.2mg
承認番号	21700AMZ00512000	21700AMZ00513000
薬価収載	2005年7月	2005年7月
販売開始	2005年7月	2005年7月

前立腺肥大症の排尿障害改善剤

パルナック® カプセル 0.1mg
パルナック® カプセル 0.2mg

PALNAC

タムスロシン塩酸塩カプセル

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

	パルナックカプセル 0.1mg	パルナックカプセル 0.2mg
組 成	1カプセル中： タムスロシン塩酸塩0.1mg <添加物> クエン酸トリエチル、 結晶セルロース、酸化 チタン、ステアリン酸 カルシウム、ゼラチン、 タルク、ポリソルベー ト80、メタクリル酸コ ポリマーLD、ラウリ ル硫酸ナトリウム、三 二酸化鉄	1カプセル中： タムスロシン塩酸塩0.2mg <添加物> クエン酸トリエチル、 結晶セルロース、酸化 チタン、ステアリン酸 カルシウム、ゼラチン、 タルク、ポリソルベー ト80、メタクリル酸コ ポリマーLD、ラウリ ル硫酸ナトリウム、三 二酸化鉄
性 状	蓋部ごくうすい黄色不 透明、胴体部白色不透 明、内容物が白色～微 黄白色の粒の4号カプ セル剤	蓋部ごくうすい赤色不 透明、胴体部白色不透 明、内容物が白色～微 黄白色の粒の4号カプ セル剤
識別コード (PTP)	t 526	t 527
外 形 (サイズ)	側面 (全長 14.2mm) (重量 122.8mg)	側面 (全長 14.2mm) (重量 205.6mg)
	断面 (蓋部 5.3mm) (胴体部 5.1mm)	断面 (蓋部 5.3mm) (胴体部 5.1mm)

【効能・効果】

前立腺肥大症に伴う排尿障害

【用法・用量】

通常、成人にはタムスロシン塩酸塩として0.2mgを1日1回食後
に経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 起立性低血圧のある患者 [症状が悪化するおそれがある]
- (2) 重篤な肝機能障害のある患者 [血漿中濃度が上昇するおそれがある]
- (3) 重篤な腎機能障害のある患者 [血漿中濃度が上昇するおそれがある]
- (4) 高齢者 ([高齢者への投与]の項参照)
- (5) ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤を服用して
いる患者 ([相互作用]の項参照)

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の過剰投与により血圧低下が予想されるので、投与量
には注意すること。
- (2) 立位血圧が低下することがあるので、体位変換による血圧
変化に注意すること。
- (3) 本剤による治療は原因療法ではなく、対症療法であること
に留意し、本剤投与により期待する効果が得られない場合
は、手術療法等、他の適切な処置を考慮すること。
- (4) めまい等があらわれることがあるので、高所作業、自動車
の運転等危険を伴う作業に従事する場合には注意させること。
- (5) 本剤投与開始時に降圧剤投与の有無について問診を行い、
降圧剤が投与されている場合には血圧変化に注意し、血圧
低下がみられたときには、減量又は中止するなど適切な処
置を行うこと。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
降圧剤	起立性低血圧が起こる おそれがあるので、減 量するなど注意するこ と。	降圧剤服用中の患者 は起立時の血圧調節 力が低下している場 合がある。
ホスホジエステ ラーゼ5阻害作 用を有する薬剤 シルデナフィ ルクエン酸塩 バルデナフィ ル塩酸塩水和 物 等	併用により症候性低血 圧があらわれるとの報 告がある。	本剤はα遮断作用を 有するため、併用に よりこれらの血管拡 張作用による降圧作 用を増強するおそれ がある。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を
実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

- 1) **失神・意識喪失** 血圧低下に伴う一過性の意識喪失等が
あらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が
認められた場合には、本剤の投与を中止し適切な処置を行
うこと。
- 2) **肝機能障害、黄疸** AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、
黄疸等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、
異常が認められた場合には、本剤の投与を中止するなど、
適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
精神神経系	めまい、ふらふら感、立ちくらみ、頭痛、眠気、 いらいら感、しづれ感
循環器	血圧低下、起立性低血圧、頻脈、動悸、不整脈
過敏症 ^{注)}	そう痒感、発疹、蕁麻疹、多形紅斑、血管浮腫
消化器	胃不快感、嘔気、嘔吐、口渴、便秘、胃重感、 胃痛、食欲不振、下痢、嚥下障害
その他	鼻閉、浮腫、尿失禁、咽頭灼焼感、全身倦怠感、 味覚異常、女性化乳房、持続勃起症、射精障害、 術中虹彩緊張低下症候群、霧視、視力障害、ほ り、熱感、灼熱感

注) 投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

高齢者では腎機能が低下していることがあるので、腎機能が低下している場合は0.1mgから投与を開始し、経過を十分に観察した後に0.2mgに增量すること。0.2mgで期待する効果が得られない場合にはそれ以上の增量は行わず、他の適切な処置を行うこと。

6. 適用上の注意

- (1) 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)
- (2) 服用時：カプセル中の粒をかみ砕いたり、カプセルを開けて服用しないよう患者に指導すること。(本剤は、タムスロシン塩酸塩の徐放性粒を充填した硬カプセルであるため、薬物動態が変わることがある)

7. その他の注意

- (1) α_1 遮断薬を服用中又は過去に服用経験のある患者において、 α_1 遮断作用によると考えられる術中虹彩緊張低下症候群(Intraoperative Floppy Iris Syndrome)があらわれるとの報告がある。
- (2) 前立腺肥大症の診断・診療については、国内外のガイドライン等の最新の情報を参考にすること。

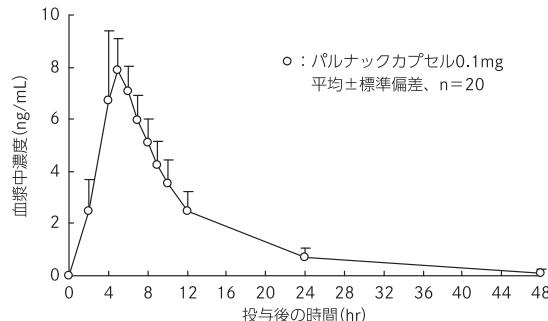
【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験¹⁾

●パルナックカプセル0.1mg

○絶食投与

パルナックカプセル0.1mgと標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ2カプセル(タムスロシン塩酸塩として0.2mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



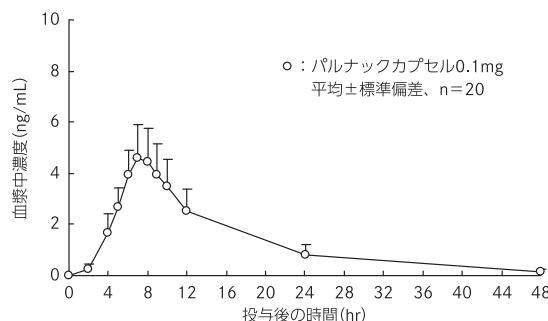
薬物動態パラメータ (平均土標準偏差, n=20)

	投与量 (mg)	AUC ₀₋₄₈ (ng · hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
パルナックカプセル 0.1mg	0.2	81.94 ± 17.74	8.49 ± 1.35	4.9 ± 0.7	7.2 ± 2.0

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

○食後投与

パルナックカプセル0.1mgと標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ2カプセル(タムスロシン塩酸塩として0.2mg)健康成人男子に食後単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



薬物動態パラメータ

(平均土標準偏差, n=20)

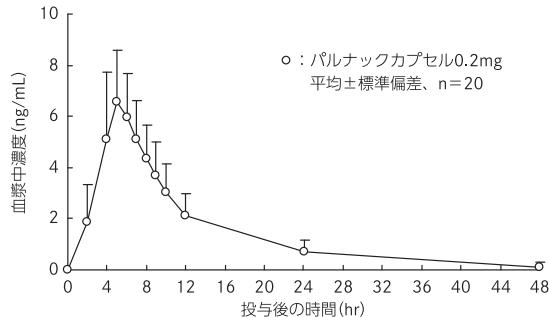
	投与量 (mg)	AUC ₀₋₄₈ (ng · hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
パルナックカプセル 0.1mg	0.2	61.87 ± 19.28	4.77 ± 1.36	7.4 ± 0.7	8.1 ± 2.0

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●パルナックカプセル0.2mg

○絶食投与

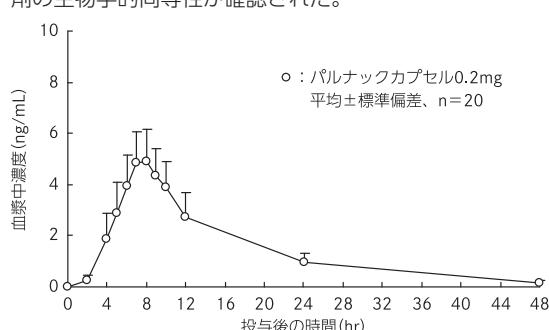
パルナックカプセル0.2mgと標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1カプセル(タムスロシン塩酸塩として0.2mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

○食後投与

パルナックカプセル0.2mgと標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1カプセル(タムスロシン塩酸塩として0.2mg)健康成人男子に食後単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出性⁴⁾

パルナックカプセル0.1mg及びパルナックカプセル0.2mgの溶出性は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた規格に適合していることが確認されている。

【薬効薬理】²⁾

アドレナリン α_1 -受容体の選択的遮断薬。 α_1 -受容体刺激作用に拮抗するが、尿道平滑筋の α_1 -受容体遮断作用による尿道緊張緩和に基づく排尿困難改善作用が臨床的に利用される。

【有効成分に関する理化学的知見】

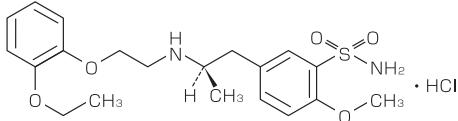
一般名：タムスロシン塩酸塩(Tamsulosin Hydrochloride)
化学名：5-[(2R)-2-[2-(2-Ethoxyphenoxy) ethylamino] propyl]-2-methoxybenzenesulfonamide monohydrochloride
分子式：C₂₀H₂₈N₂O₅S · HCl

分子量：444.97

融点：約230°C (分解)

性状：白色の結晶である。ギ酸に溶けやすく、水にやや溶けにくく、酢酸(100)に溶けにくく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくい。

構造式：



【取扱い上の注意】³⁾

安定性試験結果の概要

加速試験(40°C、相対湿度75%、6カ月)の結果、パルナックカプセル0.1mg及びパルナックカプセル0.2mgは通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

【包 装】

- パルナックカプセル0.1mg
PTP包装：140カプセル(14カプセル×10)
- パルナックカプセル0.2mg
PTP包装：140カプセル(14カプセル×10)

【主要文献】

- 1) 武田テバファーマ(株)社内資料(生物学的同等性試験)
- ※※2) 第十七改正日本薬局方解説書
- 3) 武田テバファーマ(株)社内資料(安定性試験)
- 4) 武田テバファーマ(株)社内資料(溶出試験)

※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。
武田テバファーマ株式会社 武田テバDIセンター
〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号
TEL 0120-923-093
受付時間 9:00~17:30(土日祝日・弊社休業日を除く)

※販売

武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

※製造販売元

武田テバファーマ株式会社
名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

PQM61702
02